

第3回 杉並区立杉並第一小学校改築検討懇談会会議録（要旨）

会 議 名		第3回杉並区立杉並第一小学校改築検討懇談会
日 時		令和6年6月26日（水）午後3時30分～午後5時38分
場 所		産業商工会館 展示室
出席者	委 員	学識経験者：深尾 精一 阿佐谷地区町会連合会の代表：田中 昭一 杉並第一小学校通学区域内に存する町会の代表：宇都野 正朔 杉並第一小学校学校運営協議会、学校支援本部の代表： 村上 徹也 伴野 博美 岡田 円治 竹越 不可止 松尾 純一 杉並第一小学校震災救済所の代表：近藤 浩 阿佐谷地域の商店街関係者の代表：細田 宗宏 杉並第一小学校PTAの代表：長谷川 篤男 武田 幸彦 杉並第一小学校校長：山口 祐美子 杉並第一小学校副校長：杉田 英昭 小島 昭博 懇談会委員15名（欠席5名）
	事務局	教育長：渋谷 正宏 学校整備・支援担当部長：高山 靖 まちづくり担当部長：野口 知希 学校整備課長：安川 卓弘 拠点整備担当課長：郡司 洋介 学校支援課長：中曽根 聡 防災課長：手塚 剛 学童クラブ整備担当課長：千葉 俊明 教育施設計画推進担当係長：岡本 智彦
傍 聴 者		7名
次 第		1 開会 2 委員自己紹介 3 これまでの懇談会等の振り返り 4 改築基本方針（たたき台）の検討 5 今後の進め方 6 閉会
資 料		資料1 杉並区立杉並第一小学校改築検討懇談会 委員名簿 資料2 第一・第二回杉並第一小学校改築検討懇談会とあさがやま まちづくりセッション杉一小 いただいた質問・提案・意見・ 要望など 資料3 杉並第一小学校の移転改築に寄せられた提案等 資料4 改築基本方針（たたき台） 資料5 今後の進め方 参考資料1 第一・第二回杉並第一小学校改築検討懇談会からの振り返り 参考資料2 杉並区杉並第一小学校移転改築への要望

	参考資料3 あさがやまちづくりセッション開催レポート 第1回 等
--	----------------------------------

進行役	皆様、こんにちは。本日はご多用の中、ご出席くださいますして誠にありがとうございます。 ただいまから、第3回の杉並区立杉並第一小学校改築検討懇談会を開催いたします。 最初に、懇談会では議事録を作成し、公開しておりますので、そのほかの録音・録画はご遠慮ください。 また、本日、懇談会委員と事務局のほか、傍聴をご希望の方がいらっしゃいますので、席を会場内にご用意してございます。なお、円滑な議事進行のため、傍聴される方のご発言はご遠慮いただいております。ご理解、ご協力のほどお願いいたします。 それでは、次第の2「委員自己紹介」に入りたいと思います。 懇談会の新しい委員が5月に決まりました。杉並第一小学校PTA、学童クラブ保護者から4名がご参加くださることになりました。本日、ご出席いただいております委員にご挨拶いただきたいと思います。 それではお願いいたします。
	(委員自己紹介)
進行役	今回は会場にお越しになれなかった委員にもご挨拶をいただきます。
	(委員自己紹介)
進行役	ありがとうございました。それでは、次第に沿って進めてまいります。 次第の3「これまでの懇談会等の振り返り」、事務局からお願いいたします。
学校整備課長	よろしくお願いします。 本日、地域の団体の方から意見書を頂きました。「小学校移転先の軟弱地盤についての意見書」ということで、懇談会委員の方にも配ってほしいということでしたので、区の資料ではございませんけれども、席上に置いてあるというところでございます。 それでは、次第に沿いまして資料の説明をさせていただきます。 まずは、資料飛んでしまって恐縮ですが、「参考資料」と右肩にある、「第一回・第二回杉並第一小学校改築検討懇談会の振り返り」という冊子になっている資料をお開きいただければと思います。プロジェクターに同じものの基本的には映してございますので、そちらを併せて御覧いただければと思います。 大きく3点お伝えしたいことございまして、まず1点目、前回の第2

回の改築検討懇談会で、杉一小の敷地の形状について引き続き取り組みないかというご指摘がございました。

これはご報告ですけれども、この図で黄緑色のところと、周りのオレンジのところは歩道状空地ですけれども、ここが、全てではございませんけれども、おおむね杉一小の敷地になるところでございますが、赤く塗ったところが、実際には短冊状で2軒分かれているのですけれども、こちらについて区画整理事業の事業区域への編入について同意が得られて、入れられるめどが立ったということですので、ご報告させていただきます。

実際に杉一小の敷地がどうなるかということについては、事業区域になりましたら、そこからどこかしらに区域内で換地をすることになります。そちらについてはまだこれから設計でございますので、このまま全て杉一小の敷地が広がるということでは必ずしもないのでございます。今、この敷地が20メートルぐらい食い込んでいるような敷地になりますので、この形で残るといことはなくなりそうだということでございます。そちらのご報告をさせていただきます。

続いて2点目です。こちらは同じく第1回の改築検討懇談会で、委員からこれまでの校舎の変遷について調べてほしいということで宿題を頂きましたので、そちらのご紹介ということでございます。

まず、杉一小については明治8年、公立桃園学校第一分校として、馬橋に仮校舎を造って開設され、明治17年に現在地に移ってきたという状況でございます。

4ページ目ですけれども、写真がございしますが、これはもともと全て白黒の写真をアプリでカラー化したものですので、色はあまり信じないでいただきたいのですけれども、西側と北側にそれぞれかやぶき屋根の平屋の校舎が当時あったというのが、明治の終わり頃ということでございます。

それから、こちらは大正ですけれども、5ページ目、西側の校舎が木造2階建ての校舎になった。児童数も増えてきたというところで、増改築をしたということでございます。北側については、まだかやぶき屋根の校舎が残っている状況。

それから、同じく大正の終わり頃、さらに児童数が増えたということで、西側の敷地を拡張して、さらにこの辺りの校舎を増築していった。

その当時の昭和初年代の写真がこちらですけれども、木造2階建ての校舎が東側、それから北側、その辺りに建って、児童数もかなり多かつ

たという状況でございました。

こちらがその昭和の戦争の前後の写真でございますけれども、こちらについては焼夷弾で校舎の一部延焼したということですが、大きく焼けるということではなく、戦後にもこの2階建ての木造校舎を使って学校運営をしていたという状況でございました。

こちらが昭和22年の空撮ですが、今現在の杉一小に重ねますと、東側と北側、それから西側、3方向木造2階建ての校舎で、中庭のような形で校庭があるという状況だったということでございます。

そして10ページ目が戦後になってからですが、右下の写真が西側の中杉通り側の校舎です。こちらが区内の学校で初めて鉄筋コンクリート造のRCの建物に建て替わったという時の写真でございます、右側には北校舎の木造の2階建ての校舎がまだ併存している状況です。この2年後ぐらいに北校舎もRCに建て替わって、現在に至っているという状況でございます。

続きまして、大きくここでのご紹介の3点目ですが、第2回の改築検討懇談会で、新しい学校の施設見学をしていただきました。2回に分けて8名の方にご参加いただいたのですが、ご参加いただけなかった方も多かったと思いますので、簡単ですが振り返りということでご紹介させていただきます。

まず、2校行きまして、1校目が桃井第二小学校。こちらは平成31年竣工で、5年前に完成した学校でございます。

こちらは面積が8,800ぐらいということで、区内の小学校でもそれほど広くない学校でございましたが、配置図等は後でまた別の資料でもご紹介するのですが、善福寺川に面した南側に普通教室が向くような形で、周辺の環境を生かした教育環境に配慮した学校、それから、様々木質化にも積極的に取り組んだ学校でございます。

続いて12ページ目です。桃二小の続きですが、上は音楽室です。こちらは特に桃二小だからということはないのですが、音楽室を校庭に面した側に設けまして、当然、室内、天井ですとか壁については吸音構造、それから音、扉などの建具、それから二重サッシということで、その辺りは防音にも配慮した音楽室で、周りにも影響しない音楽室を整備してございます。

それから下のほうは体育館の写真ですが、桃二小については敷地もそれほど広くない、それから児童数がかなり多い学校ということもございまして、体育館は結果としては2階に配置してございます。避難

所にもなりますので、体育館に面して防災倉庫ですとか、帰宅困難者用の倉庫等を設けていると。

それから、ここに写真がございませんけれども、プールについては屋上に設置をしまして、防火・消化水利ですとか、あるいはマンホールトイレで流して使える、そういう工夫もしたところがございます。

続いて 13 ページ目です。同じく桃二小の外構の部分ですけれども、上が従前で下が整備後ということですが、歩道状空地が整備されました。これによって、周りの住宅の方の住環境にも配慮し、また、子どもたちの通学路の安全性の確保といったことも図ったということがございます。

続いて 14 ページですけれども、桃二小につきましては、周辺で浸水の被害もあった、ちょうど善福寺川の真隣という立地でございますので、校舎については、ちょっと見にくいのですが、グラウンド面よりも 40～50 センチぐらいですかね。床レベルを上げて、その上の人工地盤上に学校を建てているということ。

それから、屋上部分に北側への日影なども配慮しまして、屋上緑化とデッキ空間としているということをやっているということがございます。

続いて杉並第二小学校については、竣工は去年の年末だったかと思えますけれども、令和 6 年、今年の 2 月から新校舎が完成して、使い始めている状況でございます。成田西にある学校。

こちらについては、東側が善福寺川の緑地になっております。かなり敷地内で東西方向に 6 メートルほど高低差がある敷地でございます。

東側の川沿いは擁壁が 4 メートルぐらいそびえていて、本当に擁壁の上に学校がある形だったのですけれども、これは川側から見た新校舎の外観でございますが、擁壁を造り直すのではなくて、校舎をそこに配置して、校舎を擁壁代わりにするとともに、川のところに、ちょっと見にくいですが、大階段、正門を設けまして、シンボリックな顔を道路側、川側に向ける設計で工夫をしたところがございます。

続いて 16 ページですけれども、崖地にあった東側を改築時に切り下げましたので、そこに大階段、併せて通路等を設けるという、特徴的な造りをしているということ。

それから放送室については、通常ですとグラウンドが見通せる場所に造るのが一般的かなと思いますが、杉二小の場合には、職員室近くの昇降口に向けて設置をして、子どもたちが放送しているのが、逆に先生方

	とかほかの子どもたちにも見える形にしているというところは、特徴的な部分かなと思っております。 続いて 17 ページです。杉二小の体育館ですけれども、こちらはちょっと見にくいですが、こちらも建築ではないのですけれども、緑色のかっこいい感じのどんちょうなどにして、こちらも学校さんの要望で、通常は赤とか紫かと思えますけれども、学校らしさというのを表現している。 それから理科室などは、教室内だけではなくて、展示棚を設けて、廊下側からもディスプレイできる形にしているということでございます。 それから 18 ページですけれども、上の写真は昇降口付近、各学年のオープンスペースで、さらに天井をピクチャーレール等設置して、子どもたちの作品なども展示できる共有スペースにするなどの工夫をしている。 それから下は学校図書館ですけれども、これも立地を生かしまして、景観のよい善福寺川沿いの 2 階中央というところで、子どもたちに居心地のいい場所づくりをしているということでやっております。 最後に、こちらは配付資料にないので、画面、プロジェクターを御覧いただければと思いますが、委員から後で写真を提供いただいたもので、過去の防災倉庫の状況でございます。 それぞれ、体育館が避難所になるということで、体育館に必要な物資、主に収納するものについては体育館のそばに、それから屋外ですとか、発災時直後に使用するものは、屋外からアクセスしやすいところに防災倉庫を設けている。そんな工夫をしているというところでございます。 参考資料についての説明は以上となります。私からの説明は以上です。
進行役	それでは、今までのご説明について、ご質問ありましたらお受けいたします。 よろしいでしょうか。ご質問ございませんか。 それでは、委員からコメントを頂ければと思います。お願いいたします。
委員	第 1 回のときに、昔の杉一がどうなっていたのか知りたいと気楽に申し上げたら、事務局が大変いい資料を作っていただいて、素晴らしい事務局だなと思いましたけれども、本当にありがとうございます。 第 1 回のときにも申し上げたのですけれども、現在建っている鉄筋コンクリートの学校は、戦後、全国的に不燃化を促進するというところで、

	急いで建てるということもあって、かなり全国的に画一的な学校ができてしまった。 それに比べて今、この調べていただいた資料をいろいろ見ると、例えば7ページとか8ページ辺りを見ると、昇降口のところに少し飛び出した屋根みたいなのがあって、これが多分、アイデンティティになっていたと思うのですね。杉一に通っていた人たちは、ここの印象がきっと残っていた。これは100年前の話ですから、皆さん全然御存じないと思いますけれども。そういうことはとても私は大切だと思っています。 今後これから建て替えるというときに、最低70年はこれから使う、できれば100年間使いたいということになると、今から70年遡ると1950年ということになって、この鉄筋コンクリートが建ったより前の話になるのですね。ですから、これから70年のことを考えるのだと、今まで70年もしくは100年、杉一がどうだったかということを見て、そのときどういう考え方で建ったものが、今皆さんの目にどう映っているか。そういうことを考えて、これからの計画を進めるべきかなと思いました。 これが事務局に作っていただいた杉一の歴史の資料に対して、コメントというかお礼でございますけれども、その後、第2回で私も桃井第二と杉並第二の見学行かせていただきました。そのときに感じたこともちょっとついでに申し上げさせていただくと、参考資料の15ページでしょうか。杉並第二小学校に伺って、私、個人的な感想ですけれども、いいなと思いました。 敷地に高低差があるところを利用して階段を造って、階段というのが将来的に、本当にユニバーサルデザインの的にいいのかどうかということとは別の問題としてあるかとは思いますが、多分ここの卒業生は今後この前で写真を撮ったり、ここが杉二だという印象に残ると。そういうアイデンティティがある設計がされているということだと思うのです。そういうことも、全体の計画の中でごく一部の話ではありますが、そういうことを大切に今後進めていただきたいと思います。 以上です。
進行役	ありがとうございました。 続きまして、第1回・第2回杉並第一小学校改築検討懇談会、あさがやまちづくりセッション杉一小など、頂いた質問・提案・意見・要望についてまとめたものがございます。事務局より説明お願いいたします。

学校整備課長	資料2を御覧いただけますでしょうか。資料2、改築検討懇談会とあさがやまちづくりセッションなどの意見・要望等の資料でご説明させていただきます。 まず、第1点目ですけれども、第2回の改築検討懇談会で頂いたご質問ございましたが、その場で答えられなかった部分もございますので、主な意見等は後ほどご紹介させていただくのですけれども、まず質問への回答というところで、簡単にですが振り返りをさせていただければと思います。 まず、1番ですけれども、改築校のマンホールトイレですとか防災井戸、備蓄品の整備等どうなっているのかということです。防災井戸については手でくめる防災井戸を、現在の杉一小もあるかと思いますが、新しい校舎配置に合わせて1か所整備し、また、マンホールトイレについては、桃二小は5基、杉二小は10基設けておりますが、杉一小についても木密地域というところもありますので、10基程度というのが目安になってくるのかなと考えてございます。 備蓄品については、おおむね1,800人分程度を備蓄として対応していくという考え方でございます。 1つ飛びまして、3つ目ですけれども、屋上庭園には、子どもたちが自由に出られるのかという、先ほど桃二小の写真なども見ていただきましたけれども、こちらについては、基本的には落下防止対策もハード的にはしておりますが、それでも最悪乗り越えて落ちてしまうというところもございますので、ふだんは施錠をしておりますして、開放するときは先生たち立会いの下、開放して、見守りながら出てもらおうという使い方で聞いてございます。 5つ目、学童は食事があるのかというご質問ですけれども、必要な日は児童がお弁当を持参するというところでございます。 6番目、エレベーターのご質問がございましたが、こちらについては現在バリアフリーの観点からも、新しい学校については必ずエレベーターを設置します。ふだん子どもたちについては、エレベーターは使わないということです。6階建ての高円寺学園などでも、児童・生徒については使えないということかと思います。 当然、車椅子の子どもが来たり、あるいは地域のご高齢の方が地域開放等で使う場合もございますので、給食の配食などと併せてそういった使い方をしていくということでございます。 それから、この中に入らないのですけれども、その後、委員から防火水槽
---------------	--

を整備されるのかというご質問を伺ったということでございます。

防火水槽については、地域の消防水利として足りているかどうかを消防と協議させていただいて、当然必要あればしっかりつけていくということで、その量等も含めて、今後消防と共有させていただきながらということで、現在のところは未定といえは未定というところでございます。

最後、9番。桃二小、杉二小の改築のコンセプト、今回議論いただく改築基本方針に当たるものを紹介してほしい。また、それらが実際に学校の設計に当たって、どのように反映されたのかということをお教えしてほしいということでございます。こちらを4ページ目以降でご紹介させていただきます。

5ページ目、桃井第二小学校の改築基本方針で、大きく3点ございまして、まず1点目としては「多様な学びの場を備え、質の高い学習環境を整えた学校をつくる」ということで、かいつまんでになりますが、①のところ、少人数教室等、多様な学習形態に対応できる施設にするであるとか、④は、ゆとりある広さの校庭を設ける。ここは先ほど申し上げたように、必ずしも広くない敷地の中での改築ということもありまして、こういった目標。

大きく2点目としましては、「安全・安心で快適な生活空間としての学校をつくる」ということで、例えば②ですと、子どもたちが快適に過ごせるように、採光ですとか通風に優れた配置。

③外周部の歩道状空地、先ほど写真をご紹介しましたけれども、子どもたちの通学の安全性の確保。

④としまして、学童クラブと小学生の放課後の居場所については、当時、放課後の居場所事業を杉一についてはそれ以前からやっておりましたが、区としても事業化をし始めた当時でございましたので、こういった場所もしっかり改築に合わせて整備しているということがございました。

それから大きな3番目としまして「地域に開かれ、地域と共に子どもたちの健やかな成長を育む学校をつくる」ということで、例えばですけれども開放会議室、地域の方も使える会議室をつくる等をしてございます。

6ページ目に具体的にどのように反映したか、文章で書いてあって分かりにくいところございます。

8ページを御覧いただければと思いますけれども、8ページが全体の

配置図になってございまして、こちらについては、狭い敷地の中で、どうしても校庭をなるべく広く、しかも整形で取りたいというところで、結果的には校舎については三角形に近いというか、台形に近い形で配置をしたということですとか、あと、このすぐ西側は環八ですので、車の騒音などもあるというところございまして、環八側に体育館を設置しまして、それで音を遮る形にして、環八から見て裏側にある普通教室ですとか、校庭が静かな環境になるところですとか、あと、校舎についても中庭を設けまして、こちらで採光・通風なども図れる校舎配置にするなどの工夫をしたということがございました。

それから7ページに戻っていただきますと、写真が多目的室という、普通教室2教室分をぶち抜いた部屋になりますが、こちらを普通教室の廊下を挟んで対面に設置をしております、開けっ放しにすることもできます。廊下と、あとは対面にある普通教室と合わせて一体的に使ったりですとか、あるいは場合によっては、小分けにしてもっと少人数のスペースで使うなど、多様な使い方ができるスペースとしても設計をしたりという工夫をしたところございまして。

続いて杉並第二小学校のほうは9ページに、スローガンというのを1つつくって、3つのビジョン、目標を6つ、それからそれぞれの取組ということで、このように定めたというところございまして、ビジョンとしては、1つ目が「学びや遊びが楽しく、長く使い続けられる学校」。ビジョンの2として「自然にあふれ、安全で居心地の良い学校」。ビジョン3「皆に愛され、大切にされる学校」ということで、それぞれのビジョンにつきまして、どのように設計で反映したかというところを設計業者にまとめていただいたのが、今日、大きいのでA3で席上に追加で配付させていただいたところになりますので、そちらを御覧いただければと思いますが、杉二小につきましても、校庭をなるべく整形で広く取りたいよねというところがございまして、そういったところの配慮が1つ。

それから、東側の善福寺川の緑地に対して、西側・北西側には神社もあったということで、その緑の連続性みたいなところ意識をしたりですとか、先ほど委員からもご紹介がありましたけれども、善福寺川沿いに大きな大階段、正門を設けて、顔になる学校づくりにも取り組んだりということをしてございます。

それから、配置のゾーニングにつきましては、これは1階の平面図になるのですが、1階、それから地下1階も含めまして、管理室系、

あと、特別教室というか、開放の関係の部屋を集めている。一方で、2階、3階には普通教室等の子どもたちの日常生活の場ということで、明確にゾーニングをしております、将来、地域も含めて使い続けられる学校にしているというところがございます。

11 ページ目ですけれども、こちらも例えば、図書室は先ほどもありましたけれども、善福寺川沿いに配置しているですとか、あと、普通教室の学年単位のまとまりといったところを意識した設計をしております、普通教室4つと、間に学年で活用できるスペースを設けまして、水回りとか、あと、階段もそれぞれ学年ごとのスペースの中に配置をして、学年ごとの活動がしやすい設計を工夫したりということを行っております。

12 ページ目ですけれども、右側にあるのが地下1階。地下1階といっても川沿いが低いところですので、川沿いからは地上1階という形になりますが、音楽室については、こちらの地下1階、川沿いに面したところに配置をしております、こちらについて、音楽室は機材の出し入れが多いということで、杉二小はウィンドバンドの活動も盛んといったところで、機材の搬出入のしやすい川沿いのところに設けることがいいのではないかとのご意見も頂いた上で、設計にも反映したということですとか、地域の防災倉庫がございます。こちら屋外の倉庫については駐車場の近くということで、車での搬出入にも配慮した工夫した設計ということでございます。

こちらが第2回の懇談会、視察を通じて頂いたご意見、それからご質問等への回答ということでさせていただければと思います。

続きまして、資料3を御覧いただければと思います。こちらは配付している紙の資料で御覧いただければと思います。A4の縦の意見集がございますので、そちらを御覧いただければと思います。

まず、大きく1点目としては、第1回・第2回の改築検討懇談会で頂いた主なご意見でございます。黄緑色のところについては、「子どもの教育環境に関すること」を少しまとめさせていただきました。

時間の関係もありますので、かいつまんでご説明させていただきますが、まず、1番、2番、3番、4番辺り、ジュニアバンドの音の対策等をして、子どもたちがのびのび活動できる学校にしてほしいということ。

それから5番、6番ですけれども、プールについて、改築後は屋上にして、校庭を広く取るのがよいと。一方で、プールというのは年に10

日ぐらいしか使わないということもあるので、造らないという選択肢、民間のプールを活用する等も選択肢として考えるべきではないかというご意見も、視察の際にも頂いたところでございます。

それから、ちょっと飛びますけれども9番、まちの中で子どもたちがにぎわいの下で成長していけるというのが杉一の伝統というご意見。

それから14番については、これも視察でのご意見ですけれども、新しい学校はバリアフリーがしっかりされておりますので、杉一小とは大分、今の学校とは違うし、新しい学校はそうあるべきだというご意見。

それから18番「木調を基本がよい」ということで、木の内装の木質化等にも取り組んでいる学校を見ていただきましたので、そうしたことも杉一小で取り入れられないかというご意見もございました。

それから、2ページ目を御覧いただければと思いますが、オレンジ色のところ、「安全・安心に関すること」をまとめてございます。28番から32番ぐらいまでが、避難所としてのしっかりした学校づくりというのが必要だよねということでございます。

それから下、黄色いところでは「地域との関わりに関すること」をまとめさせていただいております。44、45、46、杉一としてのアイデンティティ、杉一らしさというのが、場づくりというのがしっかりしたいと。杉二小の大階段のものはよかったというご意見などございましたので、この辺りまさに、杉一小らしさというのはどういうことができるかと杉一らしいのかというところも、今日まさにご意見を皆さんから頂ければ、大変今後につながるかなと思っております。

3ページ目御覧いただければと思いますが、52番、54番、56番辺り、少し駅から離れた、今よりも離れる場所になりますが、それでも駅に近い立地というのを生かして、広く地域でも使い続けられる学校になってほしいというご意見をかなり多く頂いたところでございます。

以上が、第1回と第2回の懇談会での主なご意見の振り返りです。

引き続きまして、4ページ目を御覧いただければと思いますが、あさがやまちづくりセッションで頂いた主なご意見でございます。

プロジェクターを御覧いただければと思いますが、あさがやまちづくりセッションについては、第1回の懇談会でも開催概要をご紹介したところですが、6月9日に、公募の区民の方、無作為抽出した方々から24名の方にご参加いただきまして、2つのテーマでご意見を頂きました。「児童・生徒等の視点に立って考える新しい杉一小がどうあってほしいか」「地域とのつながりの視点で考える新しい杉一小がどうな

ってほしいか」ということで、様々ご意見を頂いたところです。ワークショップ形式でかなり若い方もご参加いただきました。30代、40代の方ですね。

資料が戻りまして、先ほどの縦の意見集の4ページを御覧いただければと思います。

同じように黄緑色のところで「子どもたちの教育環境に関すること」をご紹介します。

1番、2番ですとか10番、11番辺り、新しい学校が子どもたちの生活空間になりますので、過ごしやすく快適で、元気が出る学校にしてほしいということで、居心地のいい学校を目指してほしいということがございました。

それからほかに多かったのが、4、5、6、7辺りですけれども、多文化というところ、かなり阿佐谷も外国の方を含めて増えているということも踏まえて、これから何十年か先に向けては、そういった多文化、それからLGBT等も含めて、そういったことに配慮した学校づくりをするべきではないかというご意見を頂きました。

それから、5ページ目おめくりいただければと思いますが、12番、13番で、子どもたちの教育の環境を整えてほしい。

あるいは23番で、昔から、フットパスということで、歩きやすい、歩いて楽しい地域づくりにも貢献できる学校にしたほうがいいのではないかとのご意見を頂きました。

6ページ目、オレンジ色の「安全・安心に関すること」でございますが、まず、42番の災害対応のところについては、電力がなくても井戸ですとか、電力を作り出すことができればいいのではないかということ。

それから43番等、土壌汚染の懸念、それから浸水の懸念等にしっかり応えて、震災救援所として間違いのない学校づくりをすべきであろうというところを頂きました。

46番などでも、雨水をうまく使ってというところも頂いたところがございます。

7ページ目を御覧いただければと思います。最後、黄色いところが「地域との関わりに関すること」ということで、57番「商店街・地域住民との関わりを持つ学校であってほしい」ということで、今も行っているあさがおの活動ですとか、商店街とのチョコレートの関係のものですとか、七夕まつりのジャズなどとの連携、そういったこと。それから、今までにない新しいものとしては、朝市とかマルシェとかヨガの活動場所

	などにもなってくれるといいなという声も頂いたところです。 62 番、63 番ですけれども、阿佐谷は文士村という歴史もあるので、そういったところを紹介できる場所にもなるといいのではないかと思います。 64 番は現実的なお話で、これまでもご意見を頂いているところですけれども、近隣との関係というところで、子どもたちが音楽等でうるさいと言われないように、しっかり取り組むべきではないかというご意見を頂いております。 また、8 ページ目、様々ご意見を頂きましたが、72 番で放課後の居場所にしっかりなるようにということも頂いております。 頂いたご意見は以上ですが、順番前後しましたが、委員に、こちらのあさがやまちづくりセッションにもご参加いただきましたので、今日のご欠席ですが、動画でメッセージを頂いておりますので、そちらをお聞きいただければと思います。
委員（動画）	皆さん、こんにちは。今日は現場に行けず大変申し訳ありません。 2024 年 6 月 9 日に杉並区役所で開催された「第 1 回あさがやまちづくりセッション」の結果について、お伝えしたいと思います。 当日は参加者 24 名に加え、ファシリテーターとして杉並建築会の方々も参加されました。司会は阿佐谷ジャズストリートの実行委員でもある方が務めました。 最初にお伝えしなければならないのが、杉並第一小学校の創立以来の校舎の写真が当日会場に貼り出されていました。前回の懇談会で委員が要望された件であり、開始前には参加者の皆さんが見入っておられました。大変立派な木造校舎の時代の写真もあり、共有できてとてもよかったと思います。 しかも区役所の方が、白黒写真をカラー化してくださっていたのもよかったと思います。 セッションは、最初にテーマ 1「児童・保護者の視点にたって考える新しい杉一小」、次にテーマ 2 として「地域とのつながりの視点で考える新しい杉一小」が設定され、参加者がポストイットに自由に考えやアイデアを書きつけ、それを発表し合いながら考えを膨らませるという方法が取られました。 2 つのテーマに分けて議論は行いましたが、重複する意見も多々ありましたので、両方を少し整理してご紹介したいと思います。 まず紹介したいのは、杉並第一という背景、杉並で最初に設立された

	由緒ある小学校の建て替えであり、それにふさわしい誇れる小学校にしてほしいという強い思いが共有されました。杉並で一番、そんな狭い話ではなく、世界でナンバーワンの小学校をつくろうという意見もありました。 具体的な内容としては、子どもがわくわくして行きたくなるような誇れる校舎にしてほしい。その具体策としては、木のぬくもりが感じられ、緑が豊かで、生き物の多様性にも触れられるような、環境にしてほしい。そのためにも、校庭はなるべく広いほうがいいといった意見も出ておりました。 これから国際化が進む中で、児童の多様性もますます高まると予想されるので、国籍だけではなく、ジェンダー、あるいは不登校の原因になっている過敏な児童への配慮や居場所の用意への発言もありました。 また、教室の環境としては、デジタルへの対応、ＩＣＴを活用した先端的な教育に対応できるようにしてほしいという希望もありました。 もう１つの大きなテーマが、いかに学校を開放するのか、児童だけではなく、ＰＴＡやＯＢ、地域の人を学校の中に取り込んでいく必要がある、そのためにもちゃんと居場所を学校の中に作ったほうがよいという意見が出ました。 一方で、児童の安全は守らなければいけませんので、安全と解放の両立を建物として実現してほしい。 また、児童館や文学館、クラブ活動として、ミニＦＭ局を併設するといったユニークなアイデアも出ていました。 このワークショップの成果を聞いておりますと、その議論の内容は教育現場が直面している問題として、世界中が取り組んでいる課題から外れていない、的確に押さえていたように思います。 一方で、その解決策は、地域それぞれであるはずで、そのヒントも多く出ていました。学校を継続的に地域と共に運営していくためには、このセッションで出た意見を大切にし、また、参加した方々とのご縁も大切にして、関わりを継続することができれば、よきサポートメンバーとして、杉並第一の財産になるのではないかなと思います。 簡単になりますけれども、１回目のセッションの報告ということでお伝えさせていただきました。 以上です。
学校整備課長	以上がセッションの関係の委員からのコメントでございました。 引き続いて、そのほか地域から頂いている声といたしまして、資料３

の意見集に戻っていただきたいと思います。9 ページ御覧いただければと思いますが、「阿佐ヶ谷駅北東地区エリアマネジメント推進懇談会」、こちらについては補足説明、後でさせていただきますが、どういう意見があったかというところを先にご紹介させていただきます。

まず1 番、病院の敷地、新しい病院が建つところの西側、今の杉一小の校庭の向かい、けやき屋敷の緑が残っているところについては都市計画で将来にわたって緑を残すという場所になっておりますので、そちらの緑を、杉一小の子どもたちの自然環境の学習への活用などを考えてほしいというご意見、提案を頂いている。

2 番目、整備される道路の歩道など、バリアフリーやユニバーサルデザインについて、近隣と併せて配慮していただけるといい。

3 番目、けやき屋敷の木材利用して、地産地消の推進と内装の木質化のご提案を頂いています。けやき屋敷については、その名のとおりけやきを中心に様々な樹種があったところですが、病院建築に当たって一部は伐採せざるを得なかったというところですが、木材を保管していらっしゃるそうです。そういったものを寄贈して、学校の建築などで役立ててほしいという申入れも頂いております。

4 番、5 番、6 番、7 番辺りは災害の関係ですけれども、これについては、阿佐谷北地域は木密地域でございますので、地震等耐震性、それから防火、延焼遮断の植栽等の工夫、そういったご要望を頂いている。

15 番、16 番、17 番辺りの緑化の関係ですけれども、まず、杉一小の北側については高木で中杉通りのけやき並木、それから新しい病院の北側についても高木を植えられるということで、そうした緑のネットワークとの連続性みたいなところに配慮した植栽にさせていただけると、地域としてよりよいのではないかと。

16 番、校舎西側の沿道の植栽についてですけれども、こちらは今、建てている病院側の植栽も花の咲くことを考えていらっしゃるということです。できればそういったところと合わせてもらえると、より通りとして楽しい空間になるのではないかと。

17 番について、校舎東側については木密地域に近いところですので、延焼しにくい樹木にしたらいいいのではないかと等々頂いております。

おめくりいただいて 10 ページ目ですけれども、23 番、24 番、25 番辺り、せつかく面的にまとまって北東地区が整備されますので、整備される歩道のしつらえなど、景観に配慮して統一感のあるしつらえにしたらいいいのではないかとすとか、歩いて楽しいまちづくりということで、

	簡単なベンチなどもあるといいのではないかと等々のご意見を頂いているところでございます。 エリマネの意見の詳しくは参考資料で、事前にもお送りさせていただいておりますが、教育長宛ての要望書も配付させていただいておりますので、ご参考にしていただければと思います。 それでは、時間の関係もありますので、この後「学校施設を活用した学びのプラットフォーム」ということで、こちらについては区のこういう考え方を新しい学校づくりで持っていますというご紹介になりますので、こちらは学校支援課長からご説明させていただきます。
学校支援課長	それでは、私からは「学校施設を活用した学びのプラットフォーム」という考え方について、共有させていただければと思います。 「学びのプラットフォーム」については、基本構想や教育ビジョンの中でもうたわれている言葉ですが、多くの方とこの言葉に込められた方向性を共有していくため、今回イメージ図としてご提示させていただいたものでございます。 これからの社会の中で、子どもにとっても大人にとっても一番身近な公共空間として学校施設というものがあるのではないかと。そして、この「学校」というものが、これまでの子どもたちの学びの場ということと併せて、子どもと大人にとってどういう空間になっていくのがいいのかということを整理させていただいたものでございます。 学校施設、朝から夜までというところですが、当然、朝から夕方までのところは、子どもを中心とした学校教育の時間ということになるかと思います。杉一小においては特に、この学校教育の中に地域の方が様々な関わって、学校の教育が教員だけではない関係の中で行われてきた。こういった関わりが生まれてきた学校という部分も、この「学びのプラットフォーム」の1つの側面だろうなと思っております。 また、学校教育の時間が終わった後、子どもたちの放課後の時間というのがございますが、ここは放課後、「すぎっ子くらぶ」のような形でこれまでも使われてきましたが、子どもたちの居場所としての、そんな空間として、学校教育とは少し切り離れた場面として行われていたところかなと考えております。 また、夜になりますと、大人の方の学びの場として団体に利用されることもあるでしょうし、PTAや「おやじの会」の方が何かイベントを考えるとときに場所として使うこともあるのではないかなと思います。 1日を通して学校施設という「場」を使って様々な関わり合いが生ま

	れる、そうした拠点として活用されていくというものを、この「学びのプラットフォーム」の形としてイメージしております。 これは何も改築校に限ったことではなくて、それぞれの学校施設の特性や地域の状況に応じて、いろいろな形の「学びのプラットフォーム」は出来上がっていくのだろうなど。ここは行政が何か描いてつくるというよりは、それぞれの創意工夫で厚みを増していくのだろうと考えているのですが、この右側の下のところ、こうしたプラットフォームを実現していくときの環境整備における課題として私たちが考えていることを記載しています。1つに、「安全・安心な施設利用」ということで、当然、学校は子どもたちの学びの場というのが第一義的な施設になりますので、そうした子どもたちの安全・安心というものを確保した上で、いろいろな方に開かれている学校というのを考えていくと、それは改築というタイミングはとても大事なタイミングだなと考えてございます。 また、2点目として、これまで土日含めて学校施設を使うとなりますと、「学校教育とは切り離れた」と言いながらも、学校長をはじめ、先生方の心理的な負担を含めて、とても大きいところもあったかなと思いますので、今後プラットフォーム化していくに当たっては、学校施設の管理というのがどうあったらいいのかということも考えていく必要があるなと考えてございます。 そして3点目として、これまで地域単位でいろいろな取組がございましたが、そういったところに関わっている区民の方々の負担ということもあったかなと思います。 「学びのプラットフォーム」を通して、いろいろな方が学校施設に入りやすく、活動されるという状況の中で、地域と関わる方々の裾野が広がっていくことにつながっていくといいなということも考えて、現在この「学びのプラットフォーム」という観点で、学校施設をどうしていくと有効に使えるののだろうかということを考えているということでございます。 こうした考え方について、今回、改築の検討という場でございますので、共有をさせていただいたということでございます。 私からは以上です。
学校整備課長	説明は最後になりますけれども、19 ページを御覧いただければと思います。 第1回の懇談会でも子どもたちの声を新しい学校づくりに生かして聞いていきたいということでご説明したところですが、本日までに間に

	合ってございません。今後になりますけれども、杉一小の子どもたちの意見をぜひ聞いていきたいというところで、学校さんをご相談させていただいております。 今考えているのは左側にある形で「杉一小は校舎古くなったので、校舎をたてかえます。みんなは、たてかえられた新しい学校がどんな学校がいいと思いますか？」「楽しい学校づくりって何だろう」というところで、どんなところが好きか、どんなときに楽しいと思うか、自分が学校をつくるとしたらどんな学校にするか。そういった形で、7月上旬頃をめどに、全児童から子どもの声を聞いていければと考えてございますので、またまとまりましたら懇談会の委員の皆様にも共有させていただければと思います。 資料の説明が大変長くなって恐縮なのですが、この後、次第の4で改築の基本方針のたたき台をご議論いただく時の材料として、今まで様々ご意見いただきましたので、丁寧に通り返しご説明させていただきました。 私から説明は以上でございます。
進行役	40分間にわたり丁寧なご説明をありがとうございました。 皆様、たくさんあり過ぎて、どこから質問、意見を言おうかと迷われているかと思いますが、順番は関係なく思いついたところからでいいと伺っておりますので、質疑の時間にいたします。ご発言される方は挙手をお願いいたします。よろしいですか。 委員、どうぞ。
委員	いろいろありがとうございました。 先ほど出されたもの、1つ1つはすごく理想的で、1つ1つ個々にこれは駄目とかいいとかという、できればいいなと思いました。全体的に、その上で、先ほどのお話を聞かせていただいている中で、現実感に乏しい感じました。 新しく学校を今のところに建てるにしても移すにしても、小学校1年生から6年生の子どもたちがいて、その子たちはおうちから通います。先生たちがいて、授業をする。その学校のいろいろな過程、カリキュラムがあります。 通学路のことも触れられていて、杉二と桃二の事例を出されたのですが、たとえば新しい場所に学校が行ったとしても、通学路で共通する道というのはあると思います。そういった場所に対して、例えばグリーンゾーンをつくるなど具体的な取組のような、現実的なものも同時に

進めていただければな感じました。

学校の在り方、こういう学校であればいいなど、例えばL G B Tに配慮しましょうとか国際性を豊かに、もちろん全くそのとおりだと思います。杉並第一小学校は教育基本方針でしっかり学校運営していきましょ
うと、学校運営協議会に校長先生が提案されて、その方針に沿って杉並
第一小学校は運営されています。

教育基本方針があった上で、いろいろなものがどうそれに関わってい
けるかという方向の議論が、ふわっと上からいろいろなものが降ってき
ている印象を受けてしまいました。

別に言っていることは、すごくこれがおかしいとか、これが間違っ
ている、これは要らないとかいうことはありません。ボリュームがたくさん
で、優先順位をつけていかないと、どれもこれもとはならないのかな
と思います。

現実的には今の病院のところに新しいものを建てます。造るものも、
あれもこれもとはいかないので、予算もあるでしょう。ある程度フォー
マットみたいなものがあって、オリジナリティを出せる部分と、ある程
度はメンテナンスしやすいものというもののミックスになってくると
思います。通学範囲、校区は変わらないと思いますので、そうしたら今
どういう子たちが、今、杉並第一小学校に通っていて、今後どういった
家庭、どういった地域の方が杉並第一小学校に通うのかという想定がさ
れているのか。漠然と何か外国人が増えるとか、この杉並第一小学校の
校区の、新しいタワーマンションとかがバーンと建って人が増えるとい
うのは、ちょっと今のところ想定しがたいと思うのです。

現実的なところから「こういう小学校になると思います」というもの
と、今、出されたいろいろなご意見が、どうすり合わせていこうかとい
うように出していただけるとありがたいかなと思います。

あと、近隣とのご関係とか、通学とか、先生方の通勤とかのところを
もうちょっと出してほしいと思います。

教育も何か新しい学校になるから新しいものになるということでは
ないと思うのです。今あるものの上に、全部踏襲ということではなくて
いいと思うのですけれども、新しく移ることで整理されるものもあるで
しょうし、新しく発展的につくられるものもあると思うのです。

今やっている教育、今の取組を具体的に、それらとの関わりとか今後
盛り込んで、今こうだから、新しい学校ではこうなるのではないでしょ
うかと出して欲しい。もちろんいろいろな方々が関わってくださってす

	ごくありがたいですし、いろいろな専門家の方がいろいろご意見出していただいてありがたいのです。しかし、現時点では保護者、児童と乖離してしまうのではないかなと思います。何を言ってるのか分からないになってしまう。それをうまく融合する方向で出していただければありがたいと思いました。 以上です。
進行役	委員、ありがとうございました。 データもということもありましたが、今答えられることがありますか。
学校整備課長	ありがとうございます。 今回ご紹介したのはあくまで様々ご意見あったということの事実関係でございますので、これをまさに新しい学校にどれをどこまで反映していくかというところは、後ほど資料４の基本方針でも議論させていただきますので、そちらで何をどこまで反映して、現実的な学校づくりに何をというところは、懇談会でのフィルターなどもしっかり必要かなと思っておりますので、先ほどもご紹介したのは、あくまでご紹介というところで捉えていただければと思います。 通学路等については、先ほどもこの区画整理の区域内については様々、歩道状空地なども整備されるというところは第１回でも報告したとおりですけれども、そのほかの地域については、当然これまでの道路環境は変わりませんので、そちらについては学務課などと連携して、学校移転に伴ってまた通学路を見直すのか、どうなのかといったところをしっかりと考えてまいりたいなと思います。そのほかのご意見として賜ればと思います。 資料についてはものによってになるかなと思います。またそれはご相談させていただければと思います。もちろん調べて分かる範囲については、懇談会等でもご提供させていただければいいかなと思っております。
進行役	委員、どうぞ。
委員	近隣の商店街が今、病院の正門の前の商店街ですけれども、あそこに盛り土したときに、あの辺の地盤が一番低いのです。そうすると、結局大雨が降ったときには、その近隣の商店街のほうに全部水が流れてしまうと思うのです。そうすると、あの辺は昔からよく水が出て、床上浸水が出ているはずなのです。なので、下水道の整備はもっとちゃんとしてほしいのです。
進行役	ありがとうございます。下水道の整備をという要望です。それに対し

	て、事務局からどうぞ。
学校整備課長	例えば、学校の敷地内に雨が降った雨については、なるべく敷地内でしっかり処理をするというのが原則になりますので、公共施設については民地以上に雨水流出抑制の対策などもしていきますので、そのまま周辺に流してしまうという、あるいは下水にそのまま負荷をかけることのないように、対策についてはしっかりしているということでございます。
進行役	よろしいですか。 では、続きまして、委員。
委員	前回出ていませんでしたので、二の舞になってしまうと申し訳ないなと思いますが、先ほどのこの資料を見せていただきまして、資料3の1ページの緑色のところです。その4番目「近隣への騒音対策をしてほしい」。これは複数の意見が出ていないので、私が出すと2つ目かなとなるのですけれども、これ、もしかすると騒音というよりも、小学校、現在問題になっているのは「はんおん」ではないかと思うのですよ。学校整備課長さん、聞いたことございますか。「はんおん」。 「はんおん」の「はん」という字は「火」という字に「頁」と書くのですね。「煩わしい（わずらわしい）」という字に「音」という字です。「騒音」ではなくて「煩音（はんおん）」ということが最近学校では、周り近所から言われるときの苦情として、そういうのが出てくるのかなと。 何を申し上げたいかといいますと、例えば杉一小が五丁目方面へ移転をした場合、その近隣の方たちとのアンケート調査というのをお考えになっているかどうかということです。 その近隣の方たちにも、将来のことですから、アンケートを取って、全員の方がウェルカムしてくれれば大変喜ばしいことかもしれませんが、そうでないと、要は近未来のことについて、先ほど委員が、70年たったところ、これから先70年、そのときのいわゆる近未来に対して、「煩音」というものが相当問題になるかなと。 「煩音」というのは何かといいますと、「騒音」というのはギャーギャー、ギャーギャー、バンドの音だとかプールの音だとか運動会の音ですけれども、そうではなくて、意外と小さな音です。それが非常に現代社会においては問題化しつつあるのだということを、区の学校関係の方も少し考えられないと、騒がしいのは分かりますけれども、いわゆる小さな声、そういうのが人によってはすごく煩わしく感じる。それが現実

社会において行われている気がいたします。

なぜこれを申し上げるか。私は現職時代に環境をやってまいりました。大変これがトラブルの問題の1つになっているということが考えられますので、どうかそういうところ。特に行き先の近隣の方のご意見は把握しなければいけないのではないのかなと。

それを裏返せば、この間桃二小に行かせていただきましたけれども、環八の脇で車が24時間365日ブンブン通っている。あそこではうるさいという人はあまりいないのではないのかなという気がしますけれども、この杉一小も、ご近在の方には逆に言えばご迷惑かけているかもしれませんが、道路側、公道で人もいっぱい通るし、みんな惹起して騒いでも今まで問題はなかっただろうと。あそこのガッチャンヤさんも種屋さんもなくなってしまった。うるさかったかもしれないけれども、そこに住んでいる人がいなくなってしまったから、本当に周り近所がない。どっちかといえば、北口商店街のあのアーケード街の方たちなのかなと。

これはちょっとお聞きしたのですけれども、ある保育園ではその煩音がうるさいと言われているところが、この区内でもあるのではないのかなと思いますので、どうかそういうところもきちんと調査した上で、いわゆる先行きの場所、どうかなと。

それから、私、長く79年間、河北病院の近くに住んでいましたけれども、昔の河北は池があつてすごくいいところで、でも、今ある病院は、多分この中でもご存じの方はおると思いますけれども、結核病棟だったのです。それが移転したという形で、いろいろと変わってきましたけれども。結核はそんなにないでしょうけれども。あとはほかの土壌関係、有機水銀は使っていないと思いますけれども、もろもろの、放射性物質もあそこでばらまくこともないでしょうけれども、そういうことを第三者機関できちんと調査していただいて、お金はかかるかもしれませんが、私は大事ではないかなと。

そして近い将来、もし移転するとすれば、私、卒業生ではあるけれども、それも時代の、いわゆるニーズとしてどうかなということです。

ですから、私はもし反対とすれば、相手、行く先のこと、先の方々がどう思うか、それによってトラブルが起こらないかということです。

最後に申し上げますけれども、ある、練馬でしたか、お子さんが、大人ですけれども、隣の子どもたちの声がうるさいというので殴り込みか

	けに行こうとしたら、お父様が止められまして、お父さんとけんかして、結果、お父さんが子どもを刺し殺してしまったという、そういう事件がございます。とにかくそういうことのないようにすることが、行政の手腕ではないのかなと私自身思っておりますので、どうかそういうところをひとつご懸案願いたいなということでございます。 すみません、長話で申し訳ございませんでした。よろしく願いしたいと思います。以上でございます。
進行役	委員、ありがとうございました。 事務局からございますか。
学校整備課長	ありがとうございます。 2点目の土壌の汚染の関係のことをおっしゃっているのかなと思いますが、そちらについては第1回でも委員からもご質問がございまして、病院さんでしっかり法にのっとりた調査をしていただいて、その調査結果、当然公表するとともに、区でも確認をしていくというところは当然かなと思っております。 それから、音の問題は本当にどこまでやれば100%というのは正直ないかなとは思っています。 先ほど保育園の話もありましたけれども、音の感じ方は本当に人で感じ方は様々ですので、それはなかなか正解というところはないのですけれども、先ほど桃二小についても、もともと建て替える前というのは北側に校舎があつて、それが校舎が入れ替わっているのですね。そうすると、北側にマンションがありますけれども、校舎があつたところはグラウンドになったりする。それは移転に近いように感じる方もいらっしゃいました。ただ、それはしっかり、事前にといいますか、改築の話があるときから、初期段階から丁寧にご説明するなどして、様々、説明会等でもご意見を賜りながらやってきたというところもございます。 杉一小についても本当に今頂いたご意見などを踏まえて、そこはしっかり近隣の方にも情報提供、また、近隣の本当に区画内にいらっしゃる方については、より丁寧に対応させていただければなと取り組んで、そこは确实やってまいりたいと思っています。 以上です。
進行役	ありがとうございました。 では、この先たたき台が出ているコンセプトについても話をしていきたいと思います。 それでは、次第の4「改築基本方針（たたき台）の検討」です。事務

	局から説明をお願いいたします。
学校整備課長	資料4を御覧ください。事前に資料をお送りしておりますので、細かくは時間の関係もありますのでというところもありますが、今まで頂いたご意見等を踏まえて、あくまでこれは本当にたたき台で、事務局からのたたき台ということでございます。これで行きたいというところではございませんが、今日、様々ご意見を頂いて、よりよいものにしていければなと思っております。 まず、一番上の「コンセプト」のところですが、先ほどの杉二小でもありました、一文、標語みたいなものができればいいかなと思っておりますが、今日のところでは案もございませんので、今日のご意見を踏まえて何かできればいいかなと思っております。 3つのビジョンです。ビジョン1として、「子どもたちに豊かな教育環境を整備する」。ビジョン2として、「災害に強く、持続可能で環境に配慮した、安全で安心な学び舎をつくる」。ビジョン3として、「地域と共存し、みんなでつながる学びの場をつくる」ということで、大きく3点まとめてみました。 それから、目標については記載のとおりですが、それぞれ2つずつ。具体的な取組につきましては、下で米印の点の中で幾つか具体的な取組ということでさせていただきました。 今ご意見いただいたところで申し上げますと、一番左のところでは、音楽活動等、防音等、様々近隣への配慮等のご意見も頂いておりますので、そういったところをしっかりとっていく。 それから、せっかく移転をしますので、広い校庭、これをなるべく設計で広く取るというところは、我々も頑張っていきたいなと思っておりますので、そういったところを記載している。 それから、2点目「多文化共生とユニバーサルデザインに配慮した施設」というところも大きな取組としては掲げましたが、先ほどのご意見もございましたし、どこまでやるかというところはこの場でもご意見を頂ければ助かるなと思っております。 それから、立地の特性に関連してですが、武蔵野の屋敷林の面影が残る場所で、そういった記憶もある場所でございますので、そうしたところをうまく校舎にも取り入れられればなというところは、2つ目の下の取組にも書かせていただいております。 それから3つ目のところが、防災、災害に強い施設と。 4つ目のところですね。「ZEB化」とか「エコスクール等」と書い

	てございますが、「Z E B化」というのは「ゼロ・エネルギー・ビル」ということで、省エネルギー、あるいは創エネということで、環境負荷のエネルギーが自前で賄える学校というところは目指しております。 それからエコスクール等も、環境配慮型の、あるいは環境教育にも生かせる学校づくりをしておりますので、そういったところを掲げているというところもございます。 それから最後のところですが、一番右側、阿佐谷ジャズストリート等、そういったところとの連携というのは引き続き、今までの杉一小のよさを引き継げる学校づくりをしていければというところ。 それから、放課後の居場所や地域とつながることができる場をつくるといったところも記載をさせていただいています。 これをつくる意味といたしましては、8月頃から設計事業者さんを選定してまいりますので、設計事業者さんの選定を行うときの、区としてこういった学校づくりを目指しているのだというところをしっかりと伝えをして、よりよい提案を杉一小で頂くというところも当面の使い方にもなってまいりますので、そういった観点でご意見を頂ければ助かるなと思います。 ちょっと簡単ではしておりますが、説明は以上でございます。
進行役	ありがとうございます。 では、こちらにお示しいただいたたたき台について、委員の皆様からご意見、ご提案、ご質問につきまして何う時間を取ります。 委員。
委員	よろしくお願いします。 このビジョンですけれども、先ほど委員からも、将来 100 年、70 年というロングスパンのお話があって、それはすごく大事だなと思うのですけれども、こういうものは長期・中期・短期でビジョンというのは分けて考えたほうがいいかなと思っておりまして、あまり短期的視点にこだわってしまうといけないわけですが、かといって、今現在の学校で教育をされている先生方が、やりたくても設備的に今の環境ではできないことがあったり、または、どんな設備に新しくなっても、これだけは先生方として守り通したい教育活動があるという場合に、短期的にそこでそごが生じないように、よくよく設計者が、学校の先生たちの現状と、それからご希望などもきちっと踏まえていただく。 これまではどちらかというと現場ではなくて、第三者的な人たちのご意見がたくさん出ていたと思うのですけれども、なかなかこういう場で

	先生たちは意見を言いにくいと思いますので、それはそれとして、じっくり今の教育活動をされている先生方のご意見を踏まえていただく。短期的なビジョンも設計者に、業者に、事業者に踏まえていただくように、私からお願いしたいと思います。 以上です。
進行役	委員、ありがとうございました。 事務局、ありますか。
学校整備課長	今後学校の要望といいますか、思いなどもしっかり反映していきたいと思っております。今日、あくまでたたき台でございます。具体的には様々ご意見あれば賜れば、次回そうした点も加味して修正させていただいて、反映できればと思っております。
進行役	委員、どうぞ。
委員	膨大な資料をことごとく読んできたつもりではいるのですがけれども、どうしてもちょっと1つ融和というのでしょうかね。できないのは、施設利用を地域の方にしてもらおうということと、学校の教育に地域の方も協力してもらいながらやっていくというのは、すべからず主役は子どもであり、すべからずそこに人の知恵と人の力がなければできないことなのです。幾らいい施設を造ったところで、そこで行き交う人たちがそうでもなければ、ということもありますよね。 なので、今、委員がおっしゃったように、先生方が使いやすく、子どもたちもそこでより豊かな教育を受けられるというところがコンセプトであるべきであって、そこにプラスして地域の方も、もし万が一、お使いになりたいときには、施設として利用するのか、あるいは学校の教育に協力して利用するのかというところを、それが見えにくいというか、両方が加味されて書かれているので、そのところが、申し訳ないけれども施設利用は勝手にしてちょうだいよと、私は思ってます。だけれども、杉一はそういう学校ではないです。 今まで学校教育の中で、地域の方にも賛同していただき、やってきた学校であるので、ですから、それは放課後になろうと、今、多分学校支援課長さんがおっしゃったことは、学校教育が終わってとおっしゃるけれども、学校教育の中の継続性がある、子どもたちに生活指導もできるし、よりまた子どもたちが豊かな教育を受けるために、次の日学校にまた通うわけですよ。そういう継続性の下で培ってきた杉並第一小学校だと思いますので、そのところの施設利用と地域の方の使用と、学校に協力してもらいながら、学校の子どもたちはより豊かな教育に関わ

	ってもらおうというところのコンセプトというのが、よく分からないなという感じはします。 ですから、施設利用はどうぞ施設利用していただいて構わないのですが、主役はあくまでも子どもでもありますので、子どもと先生に支障がないところということなのか、あるいは協働ということをもっと進めていって、共に子どものために教育の向上を行うかというところの、もう少し意味合いということをうたっていただかなければという思いがします。 委員がおっしゃったように、使い勝手の悪いというのが先生方に出てきますので、地域の方が使い勝手が悪いではなくて、学校の子どもの教育をしている先生方の使い勝手の悪いことでは困るなと思いつつ、いろいろな意見が出てきたので、きっとお迷いになって大変だったまとめだと思いますけれども、あくまでも子どもが主役ということと、そこで教育を培う先生方の使い勝手が悪いことだけは避けてほしいなと思いました。 以上です。
進行役	委員、ありがとうございます。 事務局からございますか。
学校支援課長	今、委員おっしゃったように、学校教育の場が学校であるというのは第一義的だと思っております。 この間、杉一の取組をいろいろ聞かせていただく中で、この学校施設を通じていろいろな世代の人がつながり合う、出会う。あるいは子どもの学びということを考えることを通して、大人同士もいろいろな考えをぶつけ合う。そんなことが実現してきたのが杉一小だろうなと理解をしております、私たちも単に施設として、部屋を切り売りというか、単に貸出施設としてというよりは、むしろそこでいろいろな世代やいろいろな活動をしている人がつながり合うような、そんな利用の広がりというのを考えていきたいなと思いますし、それはほっといたらそんなことはできないよねという今のご指摘のとおりだと思うので、そういったまさにプラットフォーム的な、多様な世代や関心をもつ人たちが混じり合いながら新しい価値を生み出していくような、そこをどういう仕掛けを用意することによってそれが実現していくのかというのは、この間の杉一の取組を含めて、そうした協働的で連続性のある学び合いが可能になるコーディネート機能やその拠点となる事務室的施設配置みたいなことも必要だと考えながら、聞かせていただいております。

	以上です。
進行役	委員、どうぞ。
委員	ありがとうございました。 桃二と杉二の下見には私も行かせていただき、なかなかよく考えられて、作られていると思いました。 ただ、これは第1回目のときも、私、申し上げたつもりですがけれども、今度の杉一の改築でどんな学校をつくるのかというのは、ひとえにどんな教育をしたいのかということが、校舎という形になったのが改築の姿だと思うのですね。そうすると一番大事なのは、どんな教育をしたいのか。この阿佐谷のまちの中で、杉並区で一番歴史の古い、150年を超える学校として、どんな教育をこれからしていきたいのか。 今どんな教育をしたいのかということは、具体的には、学校も毎年経営計画というのをつくります。それはこれまでの歴史の上に立って、そのときそのときに合わせて新しくしていっているものですがけれども、杉一小学校の経営計画の中で変わらないものとしてあるのは「知・徳・体」です。これはずっと変わってません。私、70年近く前に杉一に入りましたけれども、その時代から「知・徳・体」であったのではないかと思います。 今度の杉一の改築については、ここにいらっしゃる皆さんもよくご存じのように、今の場所で建て替えるのか、それとも病院の跡地に移動するのかということについて随分議論があったときに、最終的に杉一小学校の学校運営協議会にいられた教育長に対して、最後に「いろいろデメリットがあるにもかかわらず、どうしてもそこまで移転に区はこだわるのですか」とお聞きしたら、教育長は「それはひとえに校庭が広がるからです」と言ったのです。私、率直に言って、教育長に正面から「教育長、今の話聞いてほとほとがっかりしました。何十年間教育に携わってきた専門家として、これからの教育をどうしていきたいか、移転したらどんな教育を実現したいと区は考えているのかという話が聞けるのかと思ったら、『校庭が広がるから移転したほうがいいのですよ』。それは校庭が広がったほうがいいに決まっていますけれども、随分がっかりしました。がっかりしたけれども、私、そのとき感じたのは、ああ、そうかと。区はそのことも大事に思っているのだなと。今日提示されている「移転の基本方針案」の中にその片りん、どこにもありませんね。ということは、あれは何だったのかと思うのですよ。 だから、「知・徳・体」と言いました。新しいところで校庭が広くな

	るのだと区は言ってますよね。これはたたき台ですけれども、教育長が大見えを切って最後の最後に問い詰められてしゃべった言葉がそれだとして、その片りんがどこにも入っていないというのが私はちょっと不思議なのです。 私は必ずしも「体」のことだけ重視しろと言っているのではありません。当然のことながら、「知」も「徳」もとても大事です。 もう1つ、これも先ほど出しましたが、今どんな教育が大事だと思って杉一は教育をしているのか、あるいはこれからITも含めて時代はどんどん、どんどん変わっていく中で、日々子どもたちとも接触をしながら教育をしている先生方は、杉一の先生方ですよ。校長先生以下ね。本当だったらこういう教育をもっとしたいのだけれども、と当然思っているはず。子どもたちの意見を聞くのはいいと思うけれども、先生方の意見は子どもたちの10倍ぐらい聞いてもおかしくないと思います。先生たちも忙しいから「そんな暇ない」と言うかもしれませんが、私が言いたいのは、杉一が今実践をしている、現場で日々苦労して実践をしている教育が、本当にどういうものなのか。現場の先生たちが、これからの時代にこうあってくれればと思っている姿はどういうものなのか。 それだけが全てではないと思いますよ。それは教育委員会だって、もっと広い目でいろいろなことを知っているというのは当然あると思うので、それだけを実現しろと言っているのではありませんけれども、それは十分やっていただいた上で、次、8月にたたき台を出すまでには、今日の「たたきだい」に書いてあることは悪いこと何も書いてありませんけれども、まだ1合目か2合目位です。これは杉一でなくても、どの学校でも当てはまりますね。なので、次、8月までには、少なくとも学校の今の先生方と十分議論していただきたい。 これ、冗談で言っているのではないですよ。本当に。そうしないと、抽象的に頭の中で考えただけの現場の生きた教育とかけ離れたプランになるおそれがあるのですよ。 さっき出ましたよね。本当にすばらしい、「杉並区一の」ではなくて、「日本一の」あるいは「世界一の」小学校を、この機会につくろうではないですか。それをぜひみんなで実現しましょうよ。そのためにぜひ汗かいてほしいなと思います。よろしくお願いします。
進行役	委員、ありがとうございました。 事務局、ありますか。

学校整備課長	ありがとうございます。 まず1点目の校庭のことですけれども、先ほど私の説明が分かりにくかったかもしれないですが、目標1の中で、具体的にはこの辺りに記載させていただいております。 それから、今回たたき台ですので、まさにこれは具体的な話が進むよ うにということで、事務局としてもたたき台がないと話が進まないかな というところで示させていただいておりますので、具体的なご意見をさ らに頂ければ、大変助かるなと思っております。 学校については、もちろんお忙しいとは思いますが、もちろん校長先 生も懇談会委員でもございますし、そこはしっかり調整させていただい て詰めていければと思っております。 時間もあれなのですが、できればほか、PTAの方ですとか、ご発言 いただけない方もご意見を頂けると大変助かります。
進行役	委員、どうぞ。
委員	今、委員から「子どものため」とか「施設ばかり話すのではない」 と言われた後で非常に話しにくいのですけれども、震災救援所の立場と して、施設について、4点ほどコメントさせていただきたいと思います。 このコンセプトは、非常に杉二、桃二と比べても、真ん中に「震災」 と書いていただいているので、私の立場としては非常にいいなと思った のがまず1点目です。ありがとうございます。 2点目は、冒頭、学校整備課長さんから防火水槽の話が出ていました けれども、今日ご説明していただいた中に随分防災の話がありまして、 土地の部分については多分ご専門の先生方、委員とかいらっしゃると思 いますけれども、土壌汚染とか、低い土地であるとか、木造の家屋が多 いとか、そういったところは複合的に考えて、なおかつ防火水槽とか、 ピンチをチャンスに変えるといえますか、ポジティブにいろいろ考え て、ぜひとも、防火水槽というのは1つの地域の方に対してのいいメッ セージではないかなということで、ぜひともご検討いただきたいと思っ ております。 3点目は、今日、追加で配っていただきました杉二小学校の反映した というこのA3の紙でございますけれども、ここの真ん中の部分に、倉 庫が「利便性に配慮し、体育館の近く、かつ直接外に外部から利用でき る位置に配置し」ている。なおかつ、横に会議室があります。これは防 災の観点からしますと、体育館の近くに防災倉庫があって、なおかつ外 からアクセスできますと。そして、何かあったときに、私が中心になる

	のかもしれませんけれども、区と連動していろいろ皆様の支援をするという意味においては、非常によろしいコンセプトかと思いますので、これは直近の話でございますけれども、ぜひともいい事例だと思いますので、組み込んでいただければと思います。 4点目は、冒頭、これも学校整備課長さんから、新しい改築校はほかの学校と同じように 1,800 人分の資材をきちっと担保していただけるという、非常に頼もしい答えがありましたけれども、実情を申し上げますと、今、1,800 人分というのは、2 リットルの水が 1,800 本各校に配置されております。今、杉一の学校にあるのは 360 本です。馬橋の倉庫に 1,440 本あるという状況ですので、こういう状況が今も続いております。ですから、こういう状況は早く改善していただきたいと私は思っています。 以上でございます。
進行役	委員、ありがとうございました。 事務局からありますか。
学校整備課長	ありがとうございます。ご意見として今後反映していきたいと思います。
進行役	では、そろそろ残りの時間も気になってくるころではございますが、ご意見はございませんか。 では、委員からどうぞ。
委員	保護者の立場から申し上げますと、子どもに「いってらっしゃい」と言って、帰ってきて「ただいま」と言って「おかえり」、そういうところが一番大事だと思ってまして、ここにも掲げていただいているのですが、セキュリティという面で非常にここを充実させていただければと思っています。 今回のこの改築懇談会のスコープがどこまでというところも分かってないところがありながら発言するのも恐縮ですが、ハード面が充実してないと、その子どもの安全が守れないという部分あると思いますので、そういったところがどこなのか、どういった点はここでやっておかないと先生方も困るのかとか、そういったところをしっかりと議論して明らかにしていただいて、進めていただければなと思いました。 以上です。
進行役	ありがとうございます。 委員、ありますか。
委員	それでは、ちょっと感想になりますが、何名かの委員からもご発言あ

りましたけれども、この資料4のコンセプトはたたきということで、多分大分フラットにつくっていただいたのかと思います。ほかの2校と比べてもほとんど同じことを書いていると思いました。1つ目に教育環境としてちゃんと整備するということと、2番目が安全・安心、災害の話をしていて、3つ目が地域に開いていきますということを書いてありますが、ほかの2校も同じことが書いてあると思います。3つのお題目があって、それは変えないというのがフォーマットなのかという質問が1つ。

その中で強弱が分からないというか、一番最初に、ほかの委員からもありましたけれども、アイデンティティというか、杉一らしさというところがコンセプトに出てないとおかしいのではないのかなと思いました。

このコンセプトがいわゆる設計をスタートするための与条件になるので、何かあまり与条件になってないような気がして、当たり前のことが書いてあるだけなので、設計する立場の設計する人からしたら、普通のこと書いてあって、普通に設計すればいいのだなと思ってしまうのではないかなと思いました。杉一らしさというのをどこでどう表現し、やらなければいけないこととして認識できるのかといたら、ここにはまだ出てないのではないのかなと思いましたので、そういった意味で、コンセプトのところではかとは違うというところをしっかりと書いていくことが重要かと思いましたので、その辺お願いできればと思いました。

いろいろな議論の中で、近隣の対応とかグラウンドの形とかというところは、どちらかというときスペックというか、防音とか吸音とか教室をどう造るかは、お金をかければできることなので、予算次第でいかようにもなるという一面はあると思います。そういったところではない何かコンセプトを、ちゃんと示すべきではないのかなと思いました。

最初に昔の学校の写真などいろいろ見せていただいて、アイデンティティというのは何なのかなというのは、私も杉一に通ったわけではないので分からないので、さっき子どもたちにアンケートしてみますという話ありましたので、もし追加できるなら、「あなたはここで友達とどこで写真を撮りたいですか」とか、そういうのを聞いてみたら、どこが一番印象があって、どこが杉一のアイデンティティであり、フोटスポットなのかみたいな、どこが映えるポイントなのかというのは、聞いてみたら分かるのではないのかなという気がしましたので、もし可能ならお

	願いたいと思いました。 あと、いろいろ議論を聞いてて自分でも分からなくなったのが、学校の話、いろいろな、どういう教育をするか、どういう教室が必要か、どういう学校が必要かというところが当然大事だと思うのですけれども、そういった教育のハードとして整理する議論と、あと、防災的な、何人分の何を準備するのか、どういうときにどう使うのかみたいな、そういったスペックのところの話と、あとは学校が使われてないときにどう開放するのだという、何かいろいろな議論が混じっていて、最終的にこの委員会で決めるのは何だったのかなと思ったときに、どういう施設を造るか、どういうハードを造るかを決める場だったのかという、この会議の目的というか、この役割が何だったのかなというのをちょっと確認したいというのと思いました。 ご説明いただいたときに私は割とずっと入ったのですけれども、「学びのプラットフォーム」という中で、どちらかというところは、ちゃんと箱を造って、昼間は学校に、その時間は学校で管理していただいて、学校教育の場として使っていただく。それ以外の時間は、管理責任も含めて別の人が登場して、別の人がその館を使って何か違うことをやるみたいなことならば、他との差別化になるのかな、ほかとは違う学校になり得るのかなと思いました。 私はこの昼から夜までであるこの矢印が、夜から朝まで 24 時間使う、そういった施設だって、この場所だったら求められるのではないのかなと思いました。ちょっと極端な意見ですけれども、そういった使い方だって十分考えられるのではないかなと思いましたので、感想として発言させていただきました。 以上です。
進行役	委員、ありがとうございました。 事務局からございますか。
学校整備課長	様々ありがとうございます。 ビジョン等、ほかとあまり変わらないよねというご指摘もあったのですけれども、これは別にフォーマットが決まっているわけでも当然ございませんので、まさに最後に頂いたご意見のように、この場所だからというところをぜひ皆さんからご意見を頂いて、だからこそこういったところを特に頑張ったほうがいいのではないかと、さっき強弱というお話も頂きましたが、そういうところがまさに設計業者にも伝わるものにはしていきたいと思いますので、ほかの方も含めて、その杉一のアイデンテ

	ィティ、らしさというのはどういうところかというのを言葉にして、この中で表現できていければ我々もいいかなと思っております。本当にご意見ありがとうございます。 会の目的ですけれども、この改築検討懇談会は、こうした改築基本方針、改築に当たっての目指す学校像ですとか、そういった考え方を整理するのが1つと、その後、基本設計を行いますので、基本設計の中では、当然、校舎の配置ですとか平面計画を議論していきます。そちらの基本設計が終わるまで懇談会でご意見を頂きながら、設計に反映していくということになりますので、ハード的なところについては、おおむねの学校の設計が終わるまでということにご意見を頂くということで、第1回ではご説明したのですけれども、そのような形になってございます。
進行役	皆様にたくさんのご意見を出していただき、ありがとうございました。まだ言い足りなかったとか、思い出したということは、記録の用紙がございますので、そちらをご活用いただければと思います。 次は、次第の5「今後の進め方」について、事務局からお願いいたします。
学校整備課長	時間もございませんが、資料5の、まず2枚目御覧いただければと思います。 最後、杉一小については令和9年1月頃、病院の解体終了後に工事に入れる見込みです。そこから逆算していきまして、契約にかかる期間、実施設計、基本設計と遡って逆算していきますと、今年の8月から11月頃、設計事業者の選定のプロポーザルをしていく必要があると思っております。 したがって、今日ご議論いただいた基本方針については、次回が8月になってしまったのですが、第4回をめどに固めていく必要があると思っております。 1枚目に戻っていただきますと、次回懇談会までの進め方ということで、次回については日程調整させていただきまして、8月5日月曜日の午前10時から、場所は未定でございますが、こちらで改築基本方針の最終案をご説明して、さらにご意見いただいて、固めていければと考えてございます。 本日頂いたご意見、それから今後取っていく子どもたちのアンケートの結果などを踏まえて、区で基本方針、今日のたたき台をアレンジしたものを案として作成して、皆さんにお送りしたいなと思っております。7月の2週目ぐらいをめどに、その後、案についてご意見等あれば、あ

	るいは今日言い足りなかったというところも含めてで結構でございますけれども、頂ければ、それを反映して、第4回の懇談会の資料の事前送付という形で、基本方針の最終案を7月の懇談会の1週間ぐらい前をめどに、皆さんに展開できればと思ってございます。 何度か懇談会ができればよかったのですが、なかなか日程合いませんので、このような形で基本方針をよりブラッシュアップしていければと思っております。 資料5の説明は以上でございます。
進行役	このように進んでまいります。スケジュール等についてご質問ありますか。 では、このように進めていただきたいと思います。 そうしましたら、それでは委員よりご講評を頂きたいと思います。委員、お願いいたします。
委員	ふだんは私、教師をやっていたので、最後に講評をするのは慣れているのですが、これは懇談会ですので、講評をするというのはちょっとふさわしくないかと思いますが、感想と意見を申し述べたいと思います。 今日いろいろな意見が出て、事務局からも大変丁寧な説明を頂いて、かなり2時間非常に充実した会が開かれたと思えますし、委員に来ていただけなかったのは大変残念ですが、委員もすばらしいビデオメッセージをくださって、非常にしっかりと捉えられていらっしゃるなと思って感心しました。 今日、1つ私が申し上げようと思っていたことが、最初に委員が発言されたことですが、いろいろやっているのだけれども、先生方の意見を聞くということが入っていないなと思って、それをしゃべろうと思ってたいのです。 ただ、私が申し上げたいのは、運営協議会の方々のお話とはちょっと違うのですが、これからつくる学校は子どもたちのある意味住まいであるのですが、同時に、先生方の職場であるのです。その職場環境が働きやすく、いい環境でなければ、いい仕事をしていただけない。最近のオフィスビルなんかでも、例えばオフィスビルで働いている人たちが気持ちよく働けるように、それをサポートする厚生施設だとか、そういうものがすごく充実しているというのが、ごく最近の傾向なのです。 そういう視点を入れていかないと、学校の先生方は本当に、僕はマス

コミ報道しか知りませんが、本当に非常に大変な中で頑張ってもらってる。もっとゆとりを持って働いていただかないと、いい教育はできないと思っているのですけれども、そういうこともできる環境にぜひしたほうがいいなと思っております。それが1点。

当然、学校がどういう教育をしたいかというのも反映しなければいけないのですが、区立の小学校ですので、教員の異動がありますし、私立の学校とはそこが基本的に違うところで、なかなか今の職員の方々がどういう教育をしたいかといっても、5年後、10年後には全く違う方々が教えることに多分なるのだと思います。僕は実情を知りませんが、そういう変化にも耐えられる学校にしておかないといけない。

それは最初に申し上げた、30年後、50年後、70年後にどういう教育をすることになるか、今では想像もつかないわけですが、例えば10年前だとタブレットを使ってなんていうことは誰も考えてなかったのに、今それが当たり前の状態になっている。そういうことに対応できる学校をつくっておかなければいけない。

多分これから設計者を、僕、「設計業者」と言うのは嫌なのですが、設計者を選定することになるのだと思いますが、その人たちはすばらしい学校をつくらうと思って設計してくださるのだと思うのです。そういうときにいろいろなことを考えて、さらに最近の学校建築はこういう傾向があるとか、そういうことをものすごく勉強して、新しい提案をされる。ところが大体設計者というのは、僕も設計者の端くれだったことがあるのですけれども、新しいことをしたがるのですね。

一般的に学校建築の場合は、そういうことで設計者が突っ走ると、先生方がついていけない。一生懸命設計して、こういうことを考えて設計したのだけれども、先生方に拒否反応が起きてしまうとか、こんなの使えないよとなってしまふ。ところが10年たってみると、あのとき使えなかったと言ったのは、自分たちが駄目だったのかなと思ってくださるみたいなのなのですが、現実はそのようなのです。

そういう意味からすると、設計が始まった段階、今の段階もそうだと思うのですが、始まった段階で先生方が「こういうものでは使えない」とか、そういう意見をなるべく取り入れるということをしていただきたいと思います。

それからここにいらっしゃる方々も、僕もそんなに勉強しているわけではないのですが、ごく最近の学校建築の事例を幾つか見ていると、本当に学校建築そのものが変わってきています。特に先駆的に設計

	されたものは、新しい試みがたくさん取り入れられている。 そういうことも皆さんに知っていただきたいのですが、たまたま先週の土曜日に「新美の巨人たち」というテレビ番組がありまして、横浜の子安小学校というのが 30 分間で取り上げられたのですが、御覧になった方いらっしゃるでしょうか。再放送が 29 日土曜日の 11 時半から、11 時半からというのは、大変だったら録画して見ていただくと思いますけれども、山本理顕さんという設計者、この方はごく最近、世界的な建築の賞を取られた方で、すごい設計者なのですが、その方が設計した学校が 30 分にわたって紹介されていて、これは山本理顕さんを褒めたたえるという面もあるテレビ番組なものですから、全部うのみにしてはいけないと思いますけれども、こういうこともあるのかというのを理解する上では、とてもいい番組になっていると私は思いました。 それから、その理顕さん、僕、「理顕さん」といつも呼んでしまっているのですが、山本理顕さんがテレビの中でいろいろしゃべっていて、山本さんがみんな提案している感じに聞き取れるのですが、実際は、確かに山本理顕さんは本当にすばらしい方で、そういう提案をして、皆さんの意見を聞いて学校を建てたいという方ですが、全部が全部、山本さんの発案ではなくて、最近の学校建築の新しい動きがかなり取り入れられている。それを山本理顕さんという設計者としてそしゃくして、それを学校側に提案して、こういうものができたという番組になっているので、もしお時間があれば。 もしくは区で録画されておいて、昼間時間があるときに見たい方にお見せするとかいうことを考えていただくと、学校はこんなづくり方もあるのかという例にはなると思いますので、それをご紹介したいなと思いました。 それをご紹介すれば、もうあとは僕が言うことがないかなと思っておりますので、よろしくお願いいたします。
委員	すみません、何チャンネルですか。
委員	割にマイナーなチャンネルで、7 だったのではないかと思います。タイトル名が「新美の巨人たち」という番組です。「新美の巨人たち」でインターネットで調べると、再放送の時間というのがすぐ出てきます。

進行役	委員、ありがとうございました。 閉会に当たり、事務局、学校整備・支援担当部長より挨拶申し上げます。
学校整備・支援担当部長	長時間、懇談会ありがとうございました。 本日、現場の視察を含めて3回目ということで、様々な意見を頂けたということが、これからの改築を進めるに当たって、何より大切なことかなということを改めて感じたところです。 本日もこの教育委員会だけではなくて、まちづくり、防災の課長を含めて、部長も来ております。頂いた意見をしっかり受け止めさせていただいて、これからしっかりとそれを反映させた形で進めさせていただければと思っております。 スケジュール的にかなりタイトなスケジュールになっている中で、大変恐縮ですけれども、本日お伝えいただかなかった意見等を今後も頂きながら、我々も一生懸命取り組んでいきたいと思っておりますので、ぜひご協力を引き続きお願いしたいと思っております。 本日はどうもありがとうございました。
進行役	委員の皆様、進行にご協力いただきましてありがとうございました。延びまして申し訳ございません。 これにて閉会といたします。ありがとうございました。